



地域連携コミュニティ再生講座 全体フォーラム報告書
コミュニティを育む「場」を考える

この報告書は 2008 年 11 月 29 日に行われた第 2 回地域連携コミュニティ再生講座・全体フォーラムの報告書です。地域連携コミュニティ再生講座・全体フォーラムは、札幌圏・6 都市で「市民活動センター」など市民活動の拠点を運営し、市民活動活性化のための取組みをしている団体が集まり、地域コミュニティや市民活動の活性化の効果的な手法（市民交流、情報を発信する『場』のあり方、さらにはネットワークの方法など）について、各都市の実践事例を参考にしつつ、課題解決の方法などについて学びあうもので、財団法人北海道地域活動振興協会からの助成を受けて行われています。

2008 年 3 月に行われた第 1 回全体フォーラムでは、各団体が取り組んでいる活動をパネルディスカッション形式で紹介し議論しました。今回はさらに発展させワークショップを通じて、お互いの持つ課題を出し合い、連携によりそれらの課題を克服し活動を広げる、またそのような連携の足掛かりを築くことを目指しました。その詳細は本文に譲りますが、足掛かりを築くということに関しては今回参加者全員が前向きな感触を得たであろうと感じております。

この報告書は、今回のフォーラムに参加していただいた方々には、フォーラム当日のことを振り返り、フォーラムが一過性のイベントとなることなく、新しい連携のきっかけづくりに役立てられるものになれば、と考えて作成しました。また、当日のフォーラムに参加していない方々にとっても、役立つものになると確信しています。当日の参加団体は 6 団体でしたが、市民活動団体が持つ課題は共通するものが多く、きっとここであげられた課題は、他の多くの団体にとっても無関係ではないと考えるからです。ワークショップの方法についても、皆さんがより発展した形で応用して行う参考になるよう極力詳細に記録しました。

市民活動の多種多様な展開が繰り広げられる今日、『連携』というのは時代の流れでもあり、かつ課題でもあります。本書がそのような課題に取り組む人々に、小さなものであっても力になればと願います。

NPO 法人コンカリーニョ
理事 遠藤 淳

目次

◇ はじめに	1
◇ 目次	2
◇ 概要・参加団体の紹介	3
◇ プログラム	4
◇ ワークショップ1 お互いを知り合おう！	5
参加6団体の年表	6
得意なこと・困っていること	8
まとめ1	9
◇ ワークショップ2 連携して地域を創ろう！	10
連携マップ	11
まとめ2	12
◇ 意見交換会	14
◇ さいごに	15

■ 地域連携コミュニティ再生講座 全体フォーラム

日 時 2008 年 11 月 29 日 13:00~17:30

会 場 生活支援型文化施設コンカリーニョ

(札幌市西区八軒 1 条西 1 丁目ザ・タワープレイス 1 F)

主 催 (財) 北海道地域活動振興協会

NPO 法人ひとまちつなぎ石狩

NPO 法人コンカリーニョ

NPO 法人えべつ協働ねっとわーく

NPO 法人北広島 IT ネットワーク

NPO 法人えにわ市民プラザ・アイル

ちとせタウンネット

参加者 主催 7 団体・行政関係者 約 30 名

参加団体の紹介

NPO 法人ひとまちつなぎ石狩

市民活動に関する相談や情報収集、情報発信作業などを中心に、市民への活動支援を行う。また、地産地消事業の促進や文化継承事業、他団体や事業者と協働しての事業などのまちづくり事業を行う。

NPO 法人コンカリーニョ

札幌琴似八軒地域の劇場を核として、芸術文化活動や地域活動に関わっている人や団体と幅広く連携しながら、芸術文化の振興を図り、また芸術文化に関する事業をコミュニティ形成や教育・福祉に役立てることを目的とする。

NPO 法人えべつ協働ねっとわーく

市民活動等の推進拠点となる『場』の設置・運営をはじめ、様々な情報を積極的に受発信し、多くの活動団体や市民、企業、行政と連携を図り相互のネットワーク作りを行うことにより、活発な市民活動を生み出し、江別の地域文化や協働のまちづくりを育むことを目的とする。

NPO 法人北広島 IT ネットワーク

「デジタルデバイド」を解消し、市民が IT 革命の利益を等しく受けられるようにすること、生きがい作りや仲間作り、豊かな生活、健全な街づくりなどを推進して、北広島市における「情報化社会作り」及び「生活の豊かさの向上」に寄与することを目的とする。

NPO 法人えにわ市民プラザ・アイル

非営利の市民活動団体や市民相互の情報交換や連携、その活動支援を通じて、市民の地域力向上と協働のまちづくりの推進を図ることを目的とする。平成 19 年 4 月より市民活動の拠点「えにわ市民プラザ・アイル」の設置し、運営にあたっている。

ちとせタウンネット

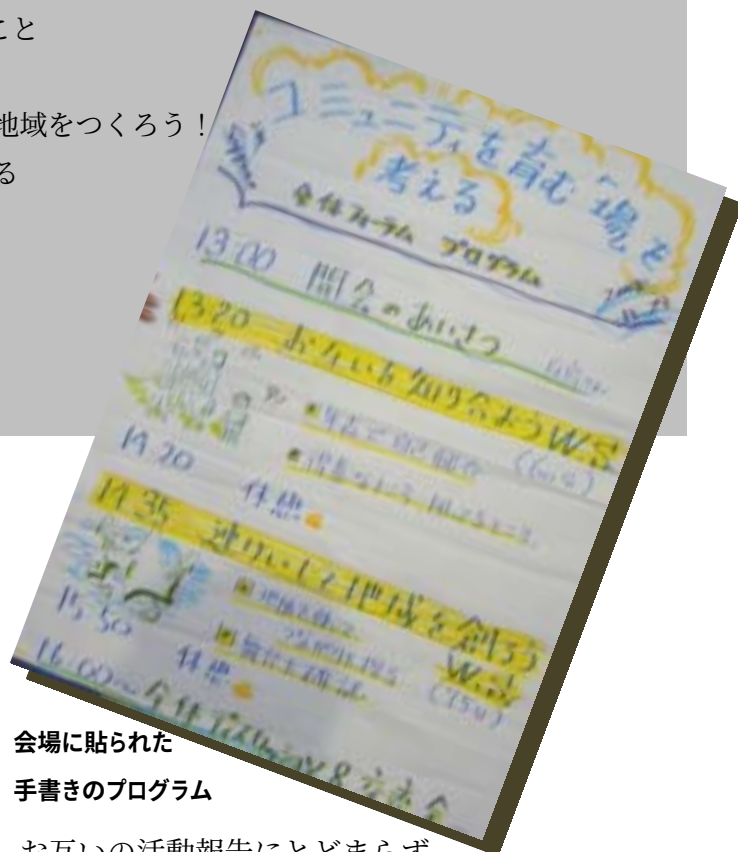
千歳市内において活動する市民及び団体などのネットワークを構築し、相互理解を図ると共に連携を強めその活動を更に活性化させることを目的とする。

■全体フォーラムプログラム

- 13:00** 開会のあいさつ
- 13:20** ワークショップ1 お互いを知り合おう！
- ・ 年表で自己紹介
 - ・ 得意なこと・困っていること
- 14:20** 休憩
- 14:35** ワークショップ2 連携して地域をつくろう！
- ・ 地図を使ってつながりを探る
 - ・ 舞台を確認
- 15:50** 休憩
- 16:00** 意見交換会 + 交流会
- 17:30** 終了



白鳥氏による
開会のあいさつ



会場に貼られた
手書きのプログラム

今回の全体フォーラムでは、お互いの活動報告にとどまらず、何らかの成果が残る企画を立てることが期待されていました。我々は“地域連携コミュニティ再生講座”というタイトルにあるように、“連携”をキーワードにしてワークショップのプログラムを考えました。また普段は劇場として使われているこの会場の特性をいかしたことを行おうと考え、広さと高さを活かし大きな地図を用いたものを考えました。ワークショップは2部構成になっています。第1部は第2部の導入として用意されています。“連携”を生み出す素材が前段階に必要と考えたので2部構成にしました。我々は連携が生まれる場面のひとつには、各々持っているリソースとニーズが結びつくことがきっかけになるということがあるだろうと考えました。また、まずお互いのことをよく知るのが第一歩とも考え、共通の時間軸に各団体を並べる年表づくりと、リソース・ニーズを出し合うという第1部のプログラムを考案しました。第2部では実際にどんな連携がありえるのかを参加者全員で考えてみます。単に連携をカードや表にまとめるのではなく、空間的により具体性のある地図上で考えるということは、まさしく“コミュニティを育む「場」を考える”企画といえるでしょう。

ワークショップ1 お互いを知り合おう!

目的 各団体のことを紹介しあい、新しい連携を築くきっかけを見つける。

方法 1) 年表づくりを通して改めて自分たちの活動を振り返るとともに、同じ時間軸で各団体を並べることによりお互い比較しながら理解を深める。各種出来事毎のアイコンカードを張りながら年表を作る。計2回の全体フォーラムは各団体共通のイベントとなる。
2) 各団体の得意なこと・困っていることをカードに書き出し、発表する。

準備 年表用紙：35cm x 400cm6 枚、アイコンカード：5 種類 x30 枚、得意/困っていること書き出し用カード：2 種類 x50 枚、作業説明用紙、筆記具（マーカー）

作業 1) 年表づくり 約 20 分間
2) 得意なこと・困っていることの書き出し 約 10 分間
3) 発表 約 30 分間



■ ワークショップ1 お互いを知り合おう! (約60分)

このワークショップでは、みなさんの団体の年表づくり、得意なこと・困っていることを挙げていただくを通して、お互いのことをよく知り合うことを目的としています。

□ 作業1 年表づくり (約20分間)

壁に貼ってある年表を下のアイコンステッカーを使って作っていきます。
文字は直接年表に書き込みます。離れても見えるよう大きな字で書きましょう。



★チャレンジアイコン

団体が達成した時点を示します。



★チャレンジアイコン

同じチャレンジした時点

ステップアップした時点を示します。始めの時点と終えた時点に



★イベントアイコン

行事・イベントがあった時点を示します。



★全体フォーラムアイコン

今年、皆さんが参加している

この「地域連携HUB再生

講座」を示します。皆さん

はこれでも同じ目の参加にな

りますね。



★全体フォーラムアイコン

今年、皆さんが参加している

この「地域連携HUB再生

講座」を示します。皆さん

はこれでも同じ目の参加にな

りますね。

※作業1と作業2は平行して行っても構いません。

□ 作業2 得意なこと・困っていることの書き出し (約10分間)

皆さんの団体の得意なことをオレンジ色のカードに、困っていることをうぐいす色のカードに記入し、書いたカードを年表の右側に貼り付けます。カードは何枚書いても構いません。できるだけ書きましょう。

※ 作業1と作業2は平行して行っても構いません。



オレンジ色のカードには得意なことを記入します。



うぐいす色のカードには困っていることを記入します。

□ 作業3 発表 (約30分間)

作業1・2で作成した年表、得意なこと・困っていることを発表してもらいます。その後、質疑応答も行います。

□ 年表 記入例



裏面が下書き用紙になっています。

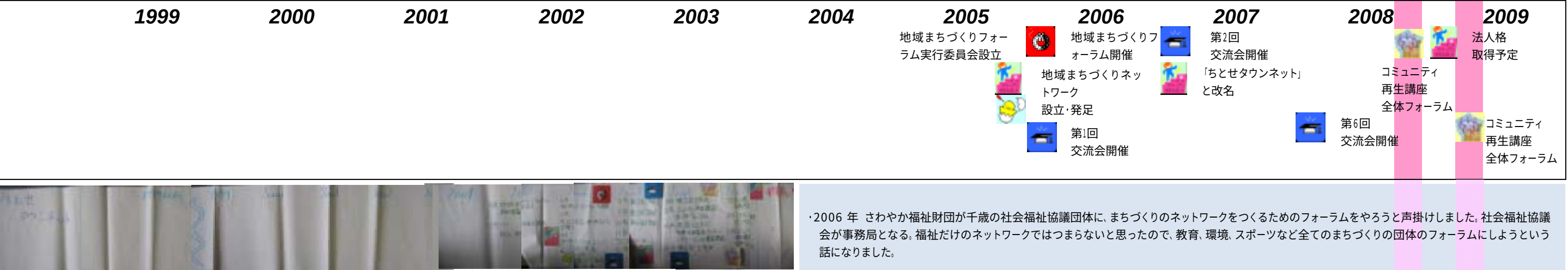
当日配布された作業説明用紙

NPO 法人えべつ協働ねっとわーく

参加 6 団体の年表①



ちとせタウンねっと

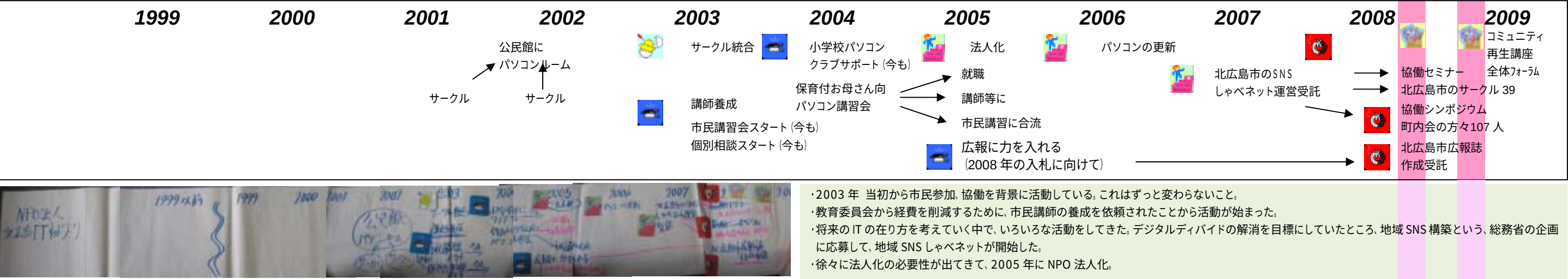


NPO 法人 ひとまちつながぎ石狩

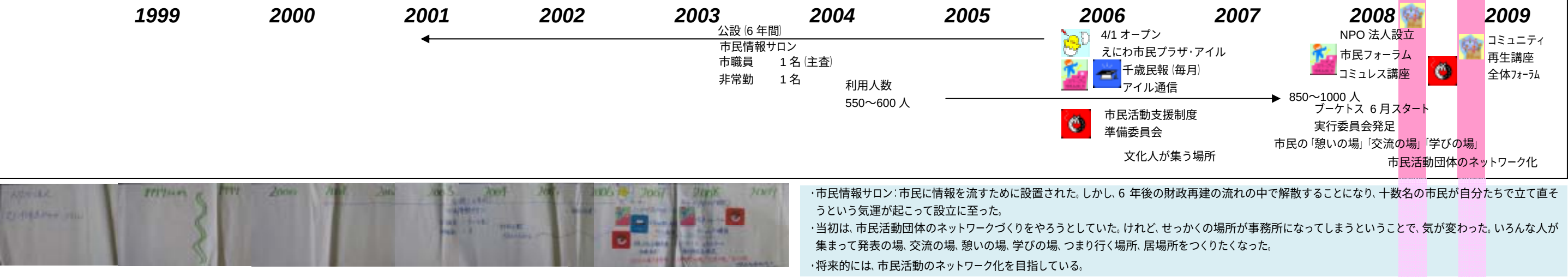


NPO 法人 北広島 IT ネット

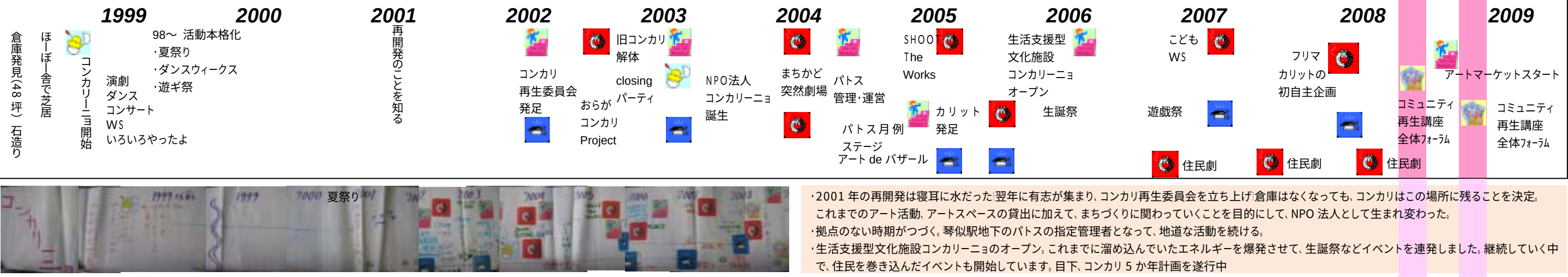
参加 6 団体の年表②



えにわ市民プラザ・アイル



NPO 法人 コンカリーニョ



参加 6 団体の得意なこと・困っていること

NPO 法人 えべつ協働ねっとわーく

活動場所
があること

各分野のエキ
スパートとネ
ットワークが
ある

行政との協
働事業があ
る。

インターネ
ットTVを運
営している

スタッフ
不足

施設(建物)
が老朽化

財政が安定
しない

ちとせタウンネット

団結力が
あります

スタッフの給
与が確保され
ています

無料で使用
できる会議
スペースがあ
ります

ホームページ
などの作成が
できます

メンバーに
パソコンに
詳しい人間
がいます

運営施設の
知名度が低
いこと

会員の拡が
りが少ない

NPO 法人 ひとまちつなぎ石狩

市役所に
強い！

姉後肌
である

時間の
使い方

お金もうけ
がへた！

ネットワー
クの必要性

NPO 法人 北広島 IT ネット

パソコンを
通して市民
と交流

市民団体の
情報発信

メンバーの
結束力

受講者の
拡大

地域 SNS の
運用

新規事業

えにわ市民プラザ・アイル

おいしいも
のが食べら
れる

企画力

行政との
折衝力

エコボック
スがすごい

FM パンプキ
ンとの連携
がよい

お金もうけが
へたである

人間関係の
あつれき

NPO 法人 コンカリーニョ

もりあげる
のが上手い

仲良しな
雰囲気

他の場所では
あまり見られ
ない企画が多
い

年齢層が
幅広い

民間劇場とし
て全国的知名
度がある

中核スタッフ
が足りない

カフェを作
りたいが場
所がない

芝居を全て
自前でつく
れる。

交通アクセ
スが良い

何でも出来る
場所がある

企画イベン
トをつくれ
る

男手が足り
ない

全体的に
お金がない

得意なこと

困っていること



まずはテーブル上での作業



下書きが出来たら壁にある年表に書き込み



最後に発表です



年表づくりは、自分達の活動を紹介するとともに、自分達で活動を振り返る場でもありました。どの団体もたくさんカードが貼られて、6枚の年表を並べた光景は感動的で壮観でした。

並べてみると、どの団体もだいたい2003年以降から活動が活発化してきています。おそらく、1998年に特定非営利活動促進法が制定され、行政サイドでも「協働」が謳われはじめ浸透してきたのがそのころではないかという意見がありました。行政からの働きかけがきっかけで出来た団体から、全く行政とは関係ないところから始まっている団体まで、そのスタートは様々ですが、ほとんどの団体がなんらかの形で行政からの事業を受けて組織運営している姿も見えます。その一方、行政との結びつきが強い団体の方が実は金銭面で苦慮しているという姿も見えてきました。また、スタッフの結束力や団結力など「人」に関することを強みとしている団体が多くあった一方で、人手不足など、やはり「人」に関する悩みを持ったところも少なくありませんでした。「人」と「お金」はおそらくどこでも共通な普遍的な問題なのでしょうか。

発表は各者つつい熱が入り、時間は押してしまいましたが、どれも聞き応えのある内容でした。

ワークショップ2 連携して地域をつくろう!

目的

参加団体及びギャラリーも含めた参加者が知っている団体間のリソース（得意なこと）とニーズ（困っていること）を結びつけることにより、どのような連携の可能性があるのかを全員で考えていく。また活動の地域特性の検証も試みる。

方法

ワークショップ1で作成したカードを利用したり、参加者各人が持っている情報を出し合いながら、連携が出来そうな組み合わせを、大きな地図を用いて具体的な空間上で視覚的に把握する。

準備

地図（大）：連携マップ 石狩管内が入ったもの 5m×7m 1部
地図（小）：流域マップ 石狩川流域が入ったもの 2.4m×1.5m 1部
WSキット 6セット

- ・ かご ・ 拠点表示シール（直径2cm程度）・ワックスクレヨン
- ・ 毛糸（赤） ・ はさみ ・ セロテープ ・ 付箋紙 ・ マーカー

作業

- 1) まず各団体の所在地を地図にプロットする。（赤シールを貼る）つぎに活動範囲を地図に記す。（ワックスクレヨンで囲う）約5分間
- 2) ワorkshop1で作成した得意なこと・困っているカードを所在地周辺に並べる。約5分間
- 3) お互いのカードを見ながら、連携できそうなところ同士を毛糸で結ぶ。
＊必ずしも自分の団体と関係しなくてもよい。ギャラリーも参加する。20分間
- 4) 一通り関係の糸が張られたら、次に現在既に何らかの関係がある団体（参加団体以外）の所在地を地図上にプロットし、同様に毛糸で結ぶ。さらに、今後何らかの連携が築けそうな団体もプロットし、毛糸で結ぶ 約20分間
- 5) 完成した地図を吊るし、感想や意見を出し合う。約10分間
- 6) 広域地図を広げ、より広い視点から連携範囲の特性を検証する。約10分間



連携マップ



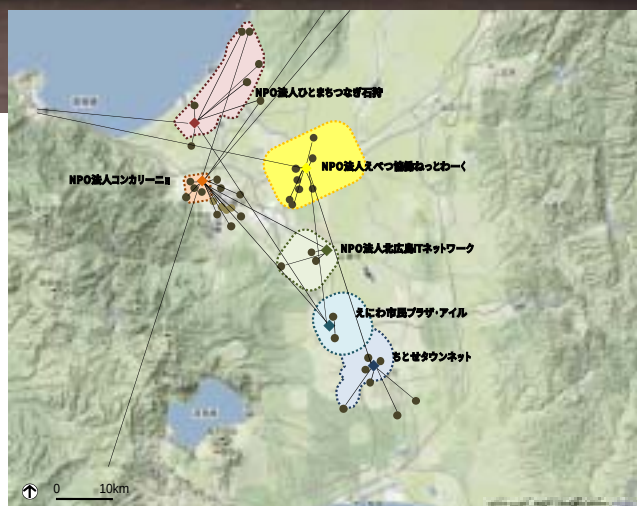
“北広島はこの石狩の縮図のように4つのエリアに分かれています。分離した地域を一つにしたいという思いで地域 SNS 構築を始めました。この石狩でも SNS を構築したいと思います。”

完成した連携マップを前に 北広島・酒井氏

凡例

- ◆ 参加団体の拠点
- 提携のある団体

参加団体の
活動範囲





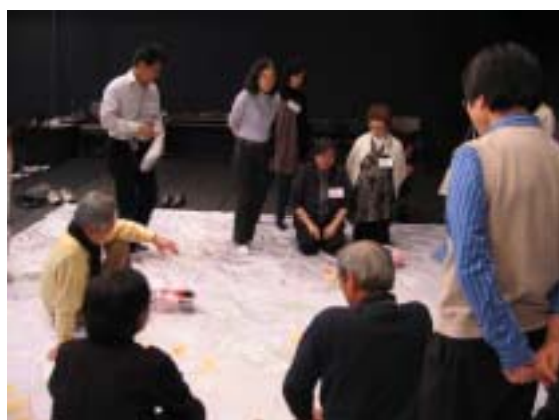
各団体のカードをよくみて“連携”を考えます。



各団体間を毛糸でつないでいきます。



活動拠点周辺には毛糸やカードが集まります。



時おり地図を眺めて話しながら作業を進めていきます。

「連携して地域をつくろう！WS」では、5m×7mの大きな地形図の上に、6つの市民団体の皆さんが実際に繋いでいる関係を、毛糸を張って示してもらいました。大きな地図の千歳市、恵庭市、江別市、北広島市、石狩市、札幌市の上に、みんなで座りながら、「あそこも繋がっているよね」「やっぱり近いところが多いさ」「市役所も入れてあげる？」などなど、日常紡がれている繋がりを地図の上に落とし、見直しました。

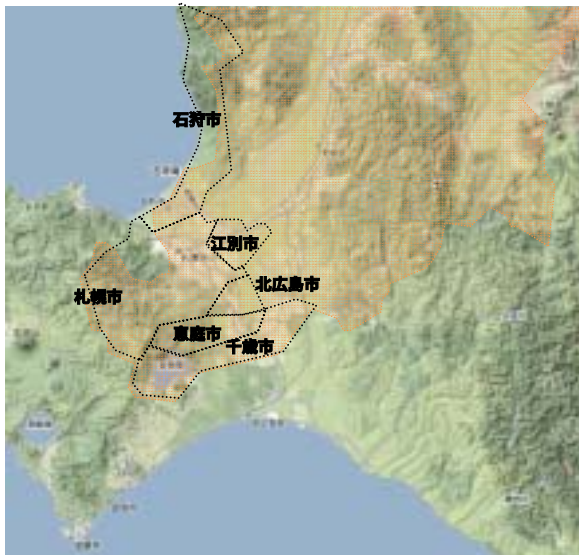
地図に張り巡らされた青や赤の毛糸は、ひとつひとつの市民団体が「地域」を創っていることを雄弁に語っています。まず各団体の拠点から短い毛糸が数多く張られているのがわかりましたが、これが各団体の形成する最も濃厚な「地域」です。次に、遠くまで伸びている毛糸たちは、グループにどうしても必要な関係を示しています。もちろんそれぞれの毛糸の先にあるグループや人々は、6つの市民団体が創っているのと同じ様な「地域」を自分の周りに形作っているでしょう。

次に年表づくりWSで作った「得意なことカード」「困っていることカード」を見せ合いながら、お互いに結べるかもしれない関係を探ってみました。

6つの市民団体が助け合える関係を表した毛糸は、それぞれのグループの創る地域が、お互いに連携する新たな可能性を指しています。「コンピュータのシステム、地域ネットの作り方を教えてほしい！」「子供の相手は得意です！！」「表現活動なら多分つたえられることがある…！」などなど、もしも繋がりの可能性を示す桃色の毛糸が一本でも本当の地理の上に本当に張られたら、その毛糸はさらに多くの関係を表す毛糸を紡ぎだすに違いありません。人々のつくる「地域」が連携してさらに大きな「地域」を創り始めることになるでしょう。



広域地図で石狩川流域を確認



石狩水系と6自治体の領域比較

このWSの最後には、石狩川の流域圏を示した地図（2.4m×1.5m）を用いて、石狩管区のあるバイオリージョン（生態圏＝流域圏）を確認しました。自然が悠久の時をかけて作り出す流域、そこに特有な生態系に、それぞれの歴史を持つ6つの市民団体の創る地域を重ねて見たのです。広大な石狩川流域から見ると、当然ながら、今回つながりが濃く表された地域は下流域の一部に位置していて、今後上流部や農村地域で人々が作り上げている地域との交流、連携も検討されました。



石狩水系 流域

ワークショップの感想

- ・ 長沼・夕張・苫小牧方面にもつながりがあるかと思ったら出なかったのが意外。幹線道路のつながりに似ているなあと思った。（札幌）
- ・ 意外と各団体間が近いと思った（札幌）
- ・ 石狩管内で閉じている。もっと広げることもできそう。できればいいな。（江別）
- ・ 札幌しかいろいろやっていない感じ。他の地域でももっとできる（札幌）
- ・ 苫小牧につながりがないのが意外（財団）
- ・ 千歳は外れにある。気持ちの上では遠い。皆さんメールで情報交換しましょう。（千歳）
- ・ この企画を考えた人は頭がいい。これを機会に考えたい（恵庭）
- ・ 石狩とつながりがあるが、実際は遠い。もっと近くにある北広・千歳とは接点がない。もっと近くのところとのつながりも考えたい（恵庭）
- ・ 石狩は各エリアとつながりがある。この手法を「石狩市内」で活用したい（石狩）
- ・ 北広島は4つのエリアに分離されている。それがちょうどこの石狩管内の縮図のよう。分離した地域をひとつにしたいという思いで地域SNS構築に取り組んでいる。この石狩でSNSを構築したい。（北広島）

意見交換会

ワークショップ2で作成した地図をバックに意見交換会は行われました。参加6団体関係者以外にも各市行政関係者が加わり、20数名の参加となりました。まず参加者全員の自己紹介が行われたあと、各団体の活動の報告がなされました。その中で恵庭市の「ブーケトス」という市民が支援する市民団体を投票で選ぶというユニークな制度が注目されました。次に今回のワークショップをふまえ具体的な行動に繋がるアイディアを出し合いました。その他、各団体が直面している具体的な課題・問題についてみんなで話し合いました。

今後まずは、メーリングリストを立ち上げ情報交換から始めましょうということで意見交換会は終了、交流会に移りました。

■ 連携の課題について

○簿記会計面でのサポートが欲しい（石狩）

- 行政としてはNPOだからといって民間と差をつけたサポートは公平性から考えて難しい。（行政関係者）
- 商工会議所と繋がるという手もある。（千歳）
- 税理士にNPOという顧客新分野の開拓を促す（恵庭）
- “企業の社会的責任”という中で税理士からのサポートを受けられる可能性はある。（江別）

■ 連携のアイディア

- ・人間関係の軋轢解消ワークショップを企画します！<（札幌）から（恵庭）へ>
- ・子供参加型の企画が欲しい！<（札幌）から（江別・恵庭）へ>
- ・パソコン講座を出前して欲しい！<（札幌）から（北広島）へ>
- ・パフォーマーの派遣をします！<（札幌）から各団体へ>



第2回地域連携コミュニティ再生講座・全体フォーラムで、本講座に参加している6つの市民グループがどのように連携することができるのか、共に考えるためのプログラム企画を検討するようにと仰せつかりました。この企画にあたりまず考えたのは、「6つの市民団体の連携の構想、実現は重要だが、しかしそれはそのままでは「地域」が連携することにはならないのではないか」という疑問でした。それでは「地域」が連携するとはどういうことなのでしょう。6つの市民団体は地域を代表するものではないし、だからといって千歳市、恵庭市、江別市、北広島市、石狩市、札幌市など基礎自治体が連携するのは、本講座で目指す地域連携とは別のものではないか、などと考えているうちに、これは「地域が連携する」というイメージが少し違うのではないかと、思い始めました。つまり、人々のつながりこそが地域をつくり、さらに広くネットワークを形づくってゆくことが、地域と地域の連携を市民レベルで実現することなのだと思います。そこで本企画のプログラムでは、皆さんのつながりを時間と空間の上に表し、また可能性を検討することを目的としました。

これに伴ってもうひとつ、北海道の大地の悠久の時間や石狩川流域に生きる生物達の豊かな空間も、人々の織り成す地域や連携と同じ時、場所にあることを、バイオリージョン（生態圏＝流域圏）という考え方を通して紹介しました。人々のつながりは小さな生き物と共にあるとき、そして雄大な時の流れの中にあるとき、生き生きとしたそこにしかない地域を創ることができると思ったからです。

「お互いを知り合おうWS」「連携して地域を創ろうWS」「パネルディスカッション」が上記の目的を果たすために準備されたWSですが、それらを通して、各団体内でも団体間でも、多くのことが話し合われたと思います。6つの団体が地域から生まれ、地域を創り、そしてそれらが無数に重なり合って創造される連携のイメージを、共有することができたのではないかと思います。

今回この企画に参加していただいた各団体の皆様、行政関係者の皆様、財団法人北海道地域活動振興協会にはこの場を借りて改めて感謝いたします。

参加された6つの団体の間に新たにどんな色の毛糸が張られるのか、ぜひ見せていただきたいと思います。またその毛糸がさらに多彩な毛糸を生み出すのも、楽しみです。多くの市民グループの創り上げる大きな地域が、さらに、小さな生き物と共生し、雄大な自然の流れと共にある地域になってゆく、そんな日は意外と近いのではないのでしょうか。

東京工業大学 土肥真人

ジェームス・R・ワッツンの北海道石狩川図
明治6年測量明治8年作成北海道大学付属図書館蔵
石狩川河川整備計画より



参加団体連絡先

NPO 法人ひとまちつなぎ石狩

理事長 羽田 美智代

〒061-3282 石狩市花畔2条1丁目9-1

TEL/FAX:0133-60-2722

E-mail : center@hitomati-ishikari.net

URL : http://hitomati-ishikari.net

NPO 法人コンカリーニョ

理事長 齋藤 千鶴

〒063-0841 札幌市西区八軒1条西1丁目 ザ・ワークプレイス

TEL: 011-615-4859 FAX: 011-615-4866

E-mail : info@concarino.or.jp

URL : http://www.concarino.or.jp

NPO 法人えべつ協働ねっとわーく

理事長 白鳥 健志

〒069-0813 江別市野幌町30番地1

TEL: 011-374-1460 FAX:011-374-1461

E-mail : center-i@kind.ocn.ne.jp

URL : http://center-i.jp/

NPO 法人北広島ITネットワーク

理事長 酒井 正汎

〒061-1146 北広島市高台町3丁目8-11

TEL: 011-372-3867

E-mail : pansake@crocus.ocn.ne.jp

NPO 法人えにわ市民プラザ・アイル

理事長 泉谷 清

〒061-1413 恵庭市本町110番地

TEL: 0123-39-3355 FAX: 0123-39-3356

E-mail: eniwa_plaza@bz03.plala.or.jp

URL : http://0331.dip.jp/ai11/

ちとせタウンネット

代表 村中 敬維

〒066-0053 千歳市東雲町二丁目社会福祉法人千歳市社会福祉協議会ボランティア課

TEL: 0123-27-2525 FAX: 0123-27-2528

E-mail:kazuhiro-takahashi@city.chitose.hokkaido.jp

URL : http://www.city.chitose.hokkaido.jp/shakyo/

■ 上記6団体のメーリングリスト代表アドレス

@

↑まず、ここに記入するところから“連携”をはじめましょう！

地域連携コミュニティ再生講座 全体フォーラム報告書 2009年3月作成
＜制作＞

遠藤 淳 一級建築士事務所 黎明座・ NPO 法人コンカリーニョ

土肥 真人 東京工業大学社会工学専攻

清野 隆 東京工業大学社会工学専攻 土肥研究室

-連絡先-

札幌市中央区北1条西15丁目大通ハイム811

一級建築士事務所 黎明座 (遠藤) TEL 011-598-0001